

川の事故から子どもを守るために！

川の危険・子どもの心を知ってから



1 川に潜む危険

- ①②：上流の雨で増水。急な濁りや枝の流れに注意する。
- ③：草で見通しが悪く、滑って川へ落ちることがある。
- ④：速い流れ、川底の石や石に留まった障害物がある。
- ⑤：浮き石でバランスを崩して転倒。流されると立てなくなる。
- ⑥⑦：底が深くえぐれている。流れが複雑で渦もあり、水中に引き込まれると浮いてこられなくなる。
- ⑧⑨：中州は急な増水で水につかり、戻れなくなる。
- ⑩⑪：水の流れは一定しない。川の事故の90%がここで発生。
- ⑫⑬⑮：複雑な流れがある。流れに巻き込まれると水圧で動けない。
- ⑭：反転流。流れはゆっくりに見えるがすぐに本流に戻される。
- ⑯：河原には、マムシやスズメバチがいる。
- ⑰：川の合流地点。2つの流れが合わさり複雑な波や流れが起きる。

- ⑱⑲⑳：流れが直線的。抜け出すことが困難。
- ㉑：ぬれた石やコンクリート護岸の上は、こげが生えて、ぬれて滑りやすい。

2 子どもから見える川

【予知できない危険がいっぱい】

- 川の流れの速さ。流れが白く見える瀬は、流れがとても速い。深い緑の本流は、想像以上の流れの速さと複雑な流れがある。
(穏やかに見える本流の流れ：2.5m/秒＝100mを40秒で泳ぐ速さと同じ)
- 深い緑の本流は、上部と下部で水温と流れの差がある。
- 見た目以上に深い本流。
(木曾川平成川島橋の下：水深8m 長良川岐阜城の下：水深18m)
- 浅い瀬から急な深みに。傾斜が急で、傾斜の石が崩れて一気に深みへ。

【魅力がいっぱい】

- きれいな流れを見ると、水遊びをしたり、泳ぎたくなる。
- 魚やエビ・カニ、虫などの生き物がいっぱいて、捕まえたくなる。

【子どもに映る川】

- 川の危険が見えなく映る川幅の広い大きな川。
川幅400mの川いっぱいには水が流れていれば危険に映るが、4分の1程の川幅に向こう岸まで渡れる気持ちになるなど危険が薄らいでしまう。
- 先の危険が見えない子どもの身長・目線。
背が低く、目線が水面に近いと、流れや深さの変化がわからない。
- 予知する心より、魅力いっぱいの川に膨らむ冒険心。
「もう少し流れの早いところ、もう少し深いところへ」
「流れがないとスリルがない」 「いざとなれば泳げばいい」

★川は自然がいっぱいでとても魅力的な空間です。子どもの冒険心も膨らみます。

指導のポイント！

- 子どもだけでは遊びに行かない。
- 立ち入り禁止の川へは、近づかない。
- 遊泳禁止の川では、絶対に泳がない。
- 家族で川に出かけ、遊ぶときには、次の点に気をつける。
 - ・必ず天気や川の情報をチェックし、急な増水に注意する。
 - ・大雨や豪雨で増水した川へは近づかない。
 - ・川で遊ぶ場合は、ライフジャケットなどの活動に合った準備をする。
- もしも事故が起きたときは、近くの大人にすぐに助けを求める。
- 遊びに行くときは、「行き先・帰る時間・誰と」を家の人に伝える。

一宮市の北から西を流れる大きな川「**木曽川**」も、身近に流れる小さな川や用水も、子どもたちにとってはとても魅力的な場所です。

しかし、大きな川「**木曽川**」にも、身近に流れる小さな川や用水にも、たくさんの危険が潜んでいます。

子どもたちは、自然の怖さ、恐ろしさを知りません。上の指導ポイントや前面の資料を参考に、子どもたちへの注意と指導をお願いします。



自分の命を守るためには、いつも危険を予知することが大切です。

『命は尊く、大切なもの』であることを伝えてください。



◎水辺の安全ハンドブック
財団法人 河川環境管理財団
<http://www.kasen.or.jp/>

◎安全に川遊びをするために
「ストップ！河川水難事故」国土交通省河川局
http://www.mlit.go.jp/river/kankyo/play/stop_suinan_leaflet.html

を参照してください。